
2010年3月期 第3四半期 決算説明資料

平田機工株式会社 2010.2.10

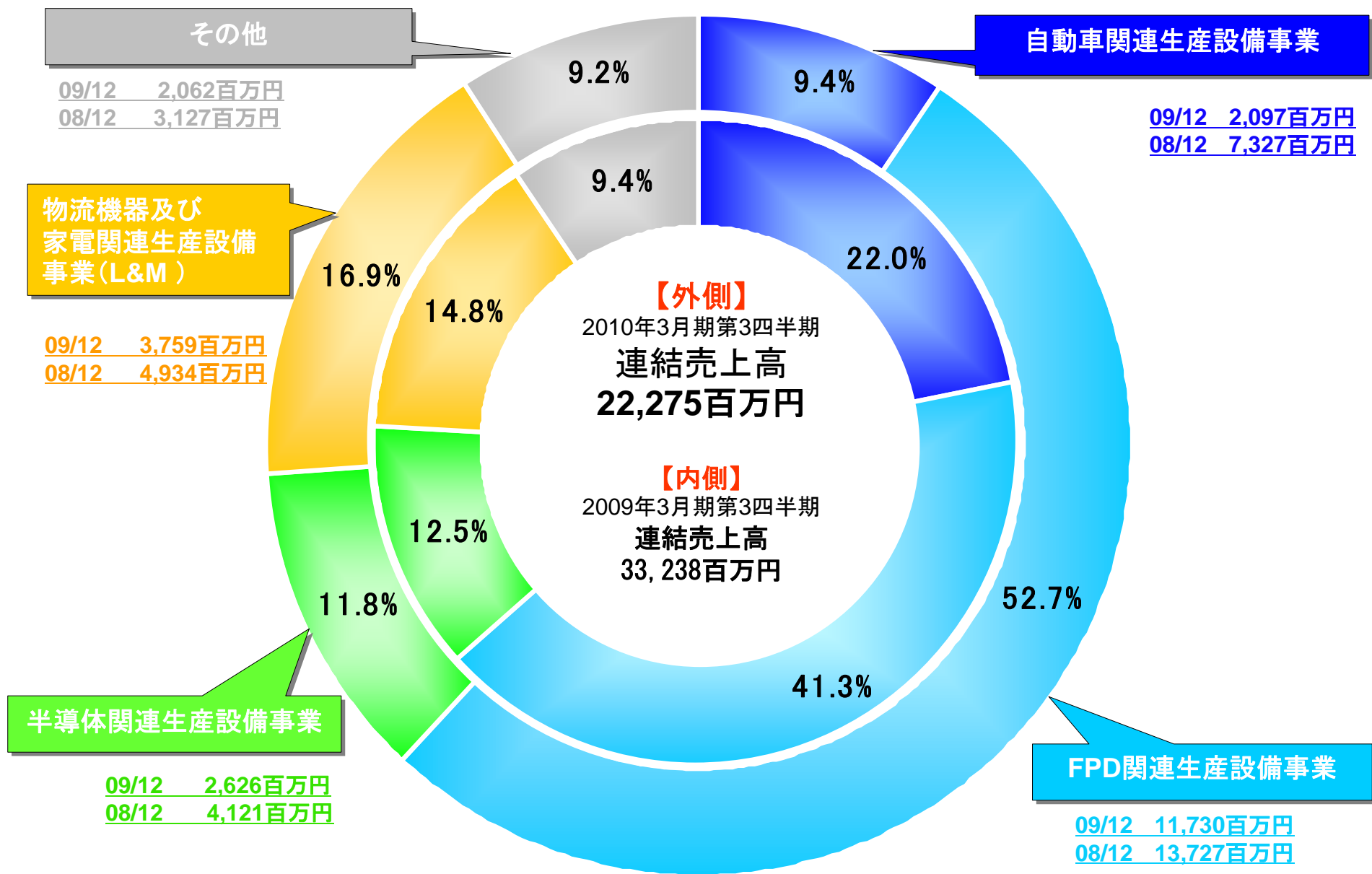




I 決算状況

2010年3月期 第3四半期 (2009年12月31日)

I 決算状況 事業部門別売上高構成比



I 決算状況 連結・単体決算概要

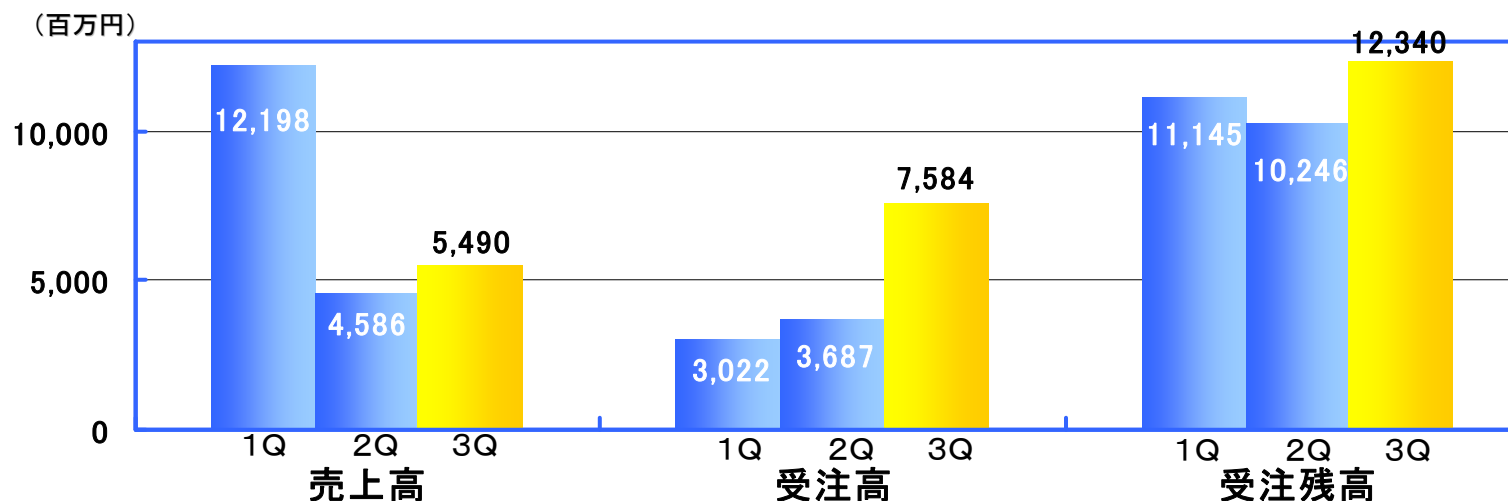
- 連結売上高は、主要顧客の設備投資の停滞が続き、前年同期比33.0%の減少。
- 緊急対策による原価、販管費の削減により、損失額は前年同期比減少。
- 会計期間で見ると、第1四半期、第2四半期比では、売上高は回復に転じており、受注高も増加傾向にある。

連結決算実績 対前年同期比

(単位:百万円)

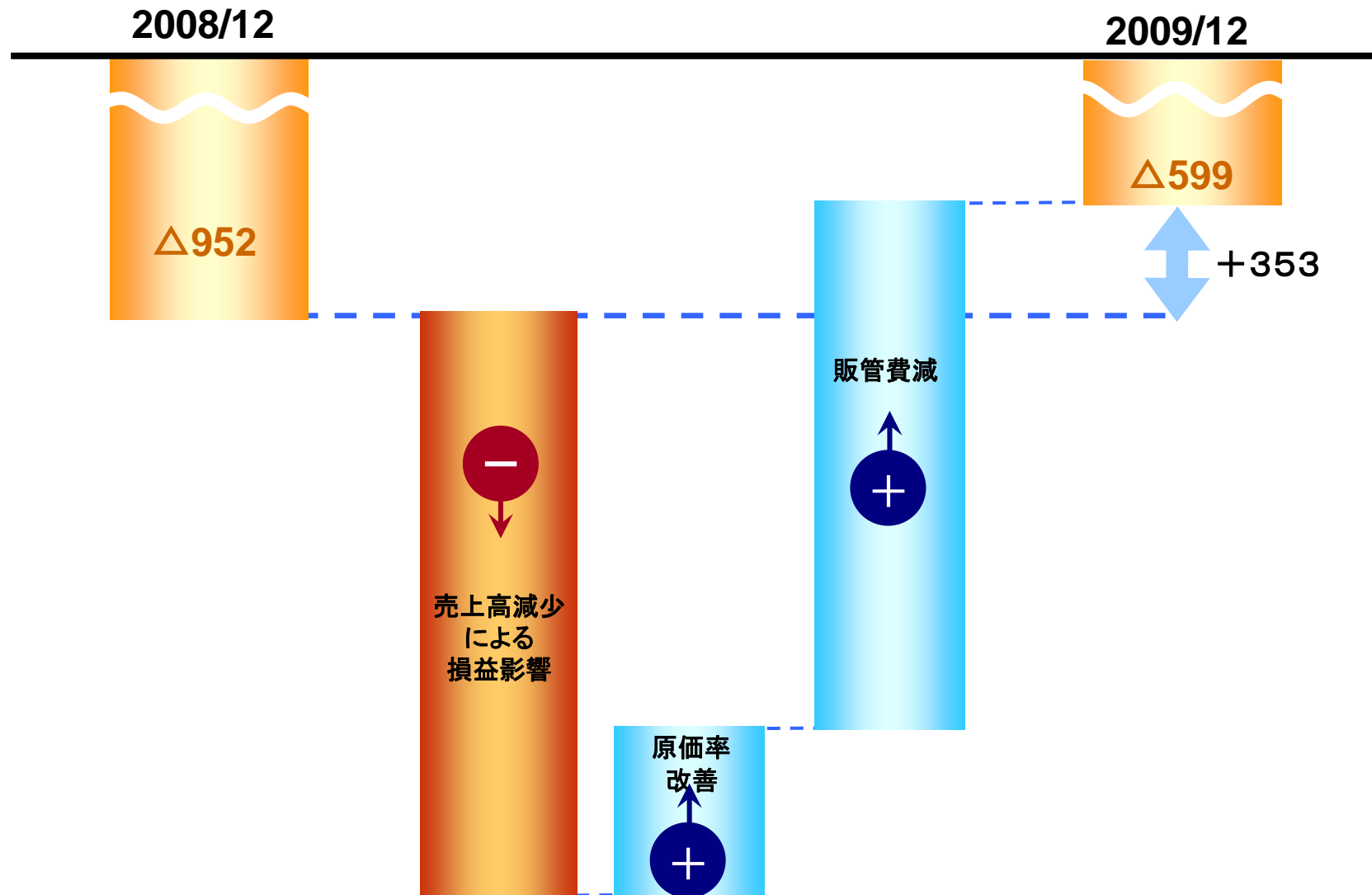
	2009年3月期 第3四半期 累計実績	2010年3月期 第3四半期 累計実績	前年同期比 増減率
売上高	33,238	22,275	△33.0%
営業利益	△952	△599	—
経常利益	△1,327	△757	—
四半期純利益	△1,132	△233	—

連結売上高・受注高 四半期推移



I 決算状況 営業利益の増減要因分析

(単位:百万円)



I 決算状況 事業部門別実績 連結売上高

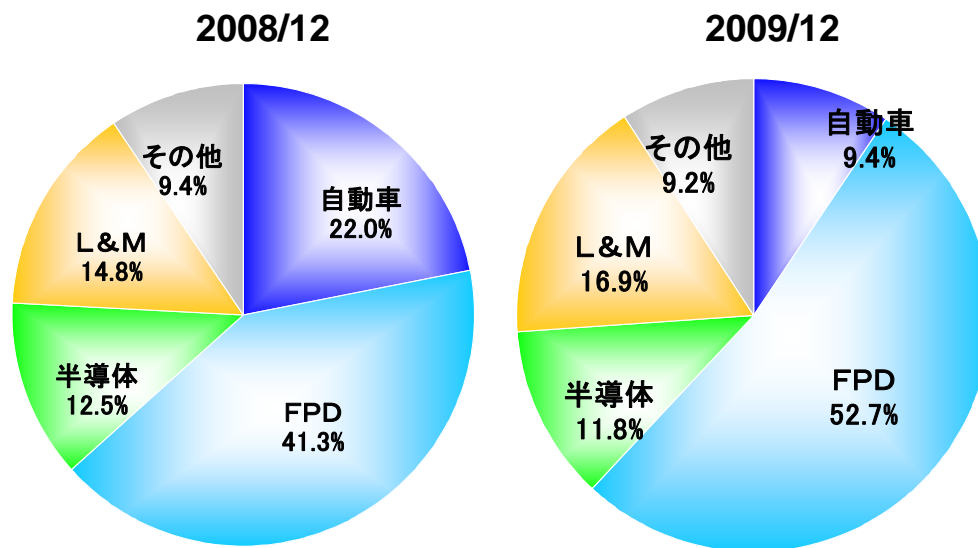
■各事業部門とも主要顧客の設備投資の停滞が続き、前年同期比で減収。

- ・ 自動車関連設備は、自動車メーカーの設備投資の停滞により、大幅減収(△71.4%)
- ・ FPD関連設備は、大型案件を売り上げたが、前年同期の水準には戻らず減収(△14.6%)
- ・ 半導体関連設備は、市場は回復基調にあるものの、前期水準には戻らず減収(△36.3%)
- ・ L&M関連設備は、自動車関連市場の停滞に伴うタイヤ業界の設備投資手控えの影響により減収(△23.8%)

事業部門別売上高の状況

単位:百万円

事業部門	2008/12	2009/12	対前年同期比 増減率
自動車	7,327	2,097	△71.4%
FPD	13,727	11,730	△14.6%
半導体	4,121	2,626	△36.3%
L&M	4,934	3,759	△23.8%
その他	3,127	2,062	△34.1%
合計	33,238	22,275	△33.0%



I 決算状況 事業部門別実績 地域別連結売上高

■国内、海外ともに自動車関連事業の減収などにより減収。

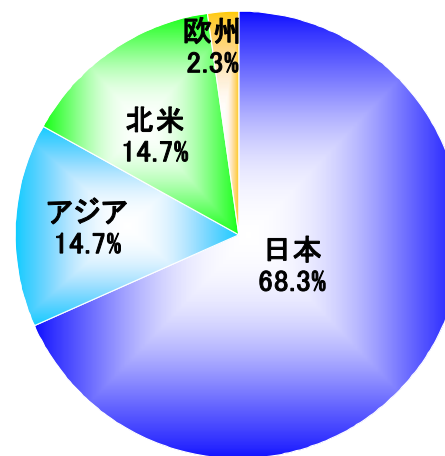
- ・ 日本国内向けは、自動車関連の設備投資の影響が大きく減収(△23.2%)
- ・ アジア向けは、前年同期好調であった家電関連、自動車部品関連の低迷により減収(△62.8%)
- ・ 北米向けは、自動車関連の設備投資の停滞の影響により減収(△44.2%)
- ・ 欧州向けは、家電関連が低調に推移し、減収(△61.9%)

地域別売上高の状況

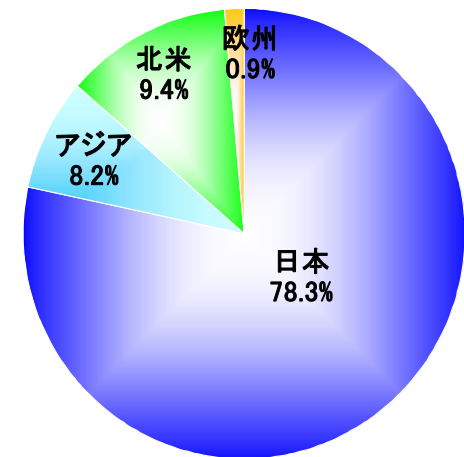
単位:百万円

地域	2008/12	2009/12	対前年同期比 増減率
日本	22,722	17,446	△23.2%
アジア	4,878	1,815	△62.8%
北米	4,885	2,728	△44.2%
欧州	751	286	△61.9%
その他	0	—	—
合計	33,238	22,275	△33.0%

2008/12



2009/12



I 決算状況 事業部門別実績 連結受注高

■各事業部門とも受注は回復基調にあるが、好調であった前年同期には及ばず減少。

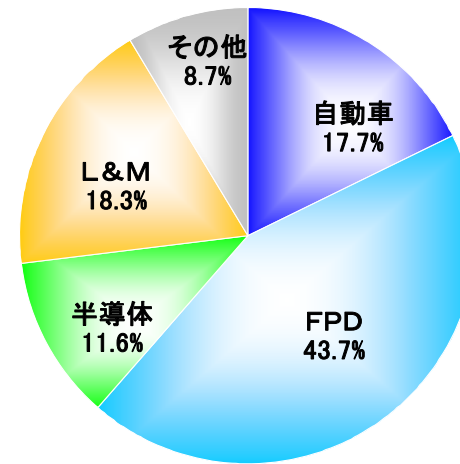
- 自動車関連生産設備は、北米メーカーからの大型案件を受注するも、前年同期の水準には戻らず減少(△41.6%)
- FPD関連生産設備は、設備投資の手控えの影響により減少(△81.9%)
- 半導体関連生産設備は、前年同期比減少(△14.5%)ながら設備投資には一部回復の兆しが見られる
- L&M関連生産設備も設備投資抑制の影響で減少(△50.2%)

事業部門別受注高の状況

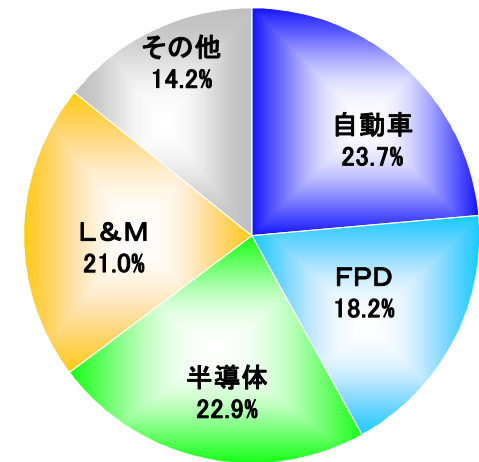
単位:百万円

事業部門	2008/12	2009/12	対前年同期比 増減率
自動車	5,808	3,389	△41.6%
FPD	14,382	2,601	△81.9%
半導体	3,819	3,266	△14.5%
L & M	6,037	3,006	△50.2%
その他	2,851	2,030	△28.8%
合計	32,897	14,294	△56.5%

2008/12



2009/12



I 決算状況 事業部門別実績 連結受注残高

■半導体関連は回復の兆しがあるが、自動車関連は中国市場を除き、引き続き冷え込んだ状況。

FPD関連は稼働率上昇の影響により、設備投資に期待ができるが、具体的な受注には結びついていない。

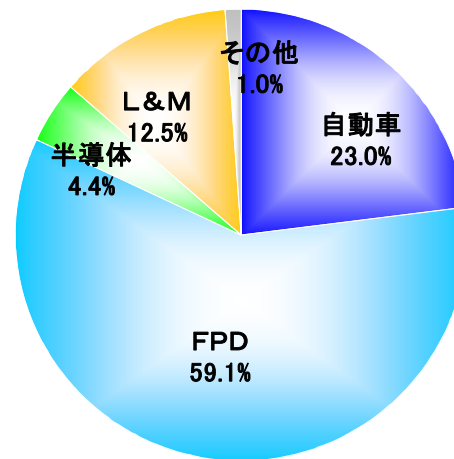
※但し、当年度第一四半期より工事進行基準による売上を適用しているため、同基準による売上分を差し引いて算出。

事業部門別受注残高の状況

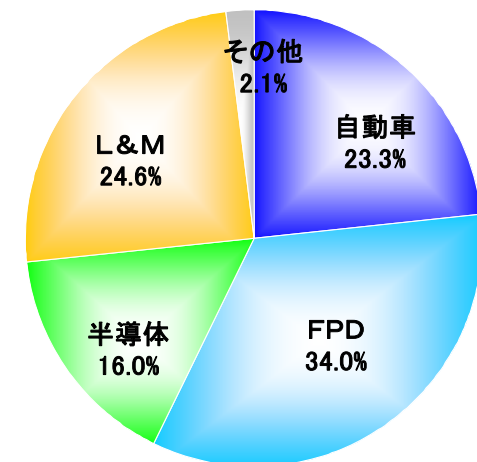
単位:百万円

事業部門	2008/12	2009/12	対前年同期比 増減率
自動車	7,636	2,873	△62.4%
FPD	19,656	4,193	△78.7%
半導体	1,473	1,979	+34.4%
L&M	4,161	3,039	△26.9%
その他	331	254	△23.1%
合計	33,258	12,340	△62.9%

2008/12



2009/12



II 今期のトピックス

450mmウェーハ対応搬送システム EFEM開発

半導体業界で検討されている次世代450mmウェーハに対応する搬送システム EFEM(Equipment Front End Module)を開発。 2009年11月30日開示

◆ 新開発EFEMの特長

(1) 微細化・高集積化への対応

独自の気流制御により、高クリーン度を達成。
半導体デバイスの微細化・高集積化に対応。

(2) 高速性・安定性

従来機の約8倍の処理能力をもつ新型のコントローラを開発。
500枚/時の搬送可能。

(3) 豊富なバリエーションとカスタム対応

システムを構成するウェーハ搬送ロボット、ロードポート、アライナは全て自社製品で、フレキシブルなレイアウトの設定、最適なシステムの構築が可能。

(4) 環境にやさしいシステム

バッテリーをなくしたことで、メンテナンス性の向上、廃棄物の削減を実現。
また、簡素構造で軽量化し、電気消費量の削減による省エネ化に対応。



450mmウェーハ対応 EFEM



Ⅲ 2010年3月期業績の見通し

Ⅲ 事業環境

各国の需要刺激策等の効果により、足もとの景気は回復しつつあるが、生産設備投資は抑制されており、価格競争も激化しているため、受注環境は引き続き厳しい。

一方で、エコ、クリーン関連の需要が増える先進国と、低価格・中品質の大量生産型市場の拡大が続く発展途上国との2極化が進んでおり、今後はそれぞれの動向に応じた対応が重要となる。

自動車関連事業

日米欧ともに買替支援策により完成車の販売台数は増加しているが、支援策終了後の減少が懸念される。中国等の市場牽引に期待がかかる一方、ハイブリッド車等、新世代自動車関連の設備投資が活発化。

FPD関連事業

国内ではエコポイント制度の下支えによる薄型テレビの販売増加が続くが、製品価格の下落傾向は続く。一方、中国では需要増を見込んで日韓FPDメーカーの工場新設が予定されている。

半導体関連事業

ネットブックや携帯電話等の販売好調により市場は回復基調にある。

太陽電池関連事業

国内では、余剰電力買取価格の引上げにより需要の伸びが期待される。また、オバマ政権のグリーン・ニューディール政策の本格化に伴い、米国市場の拡大も見込まれる上、世界最大の欧州市場の需要も回復基調にある。

Ⅲ 今期連結業績予想

業績予想に変更はありません。

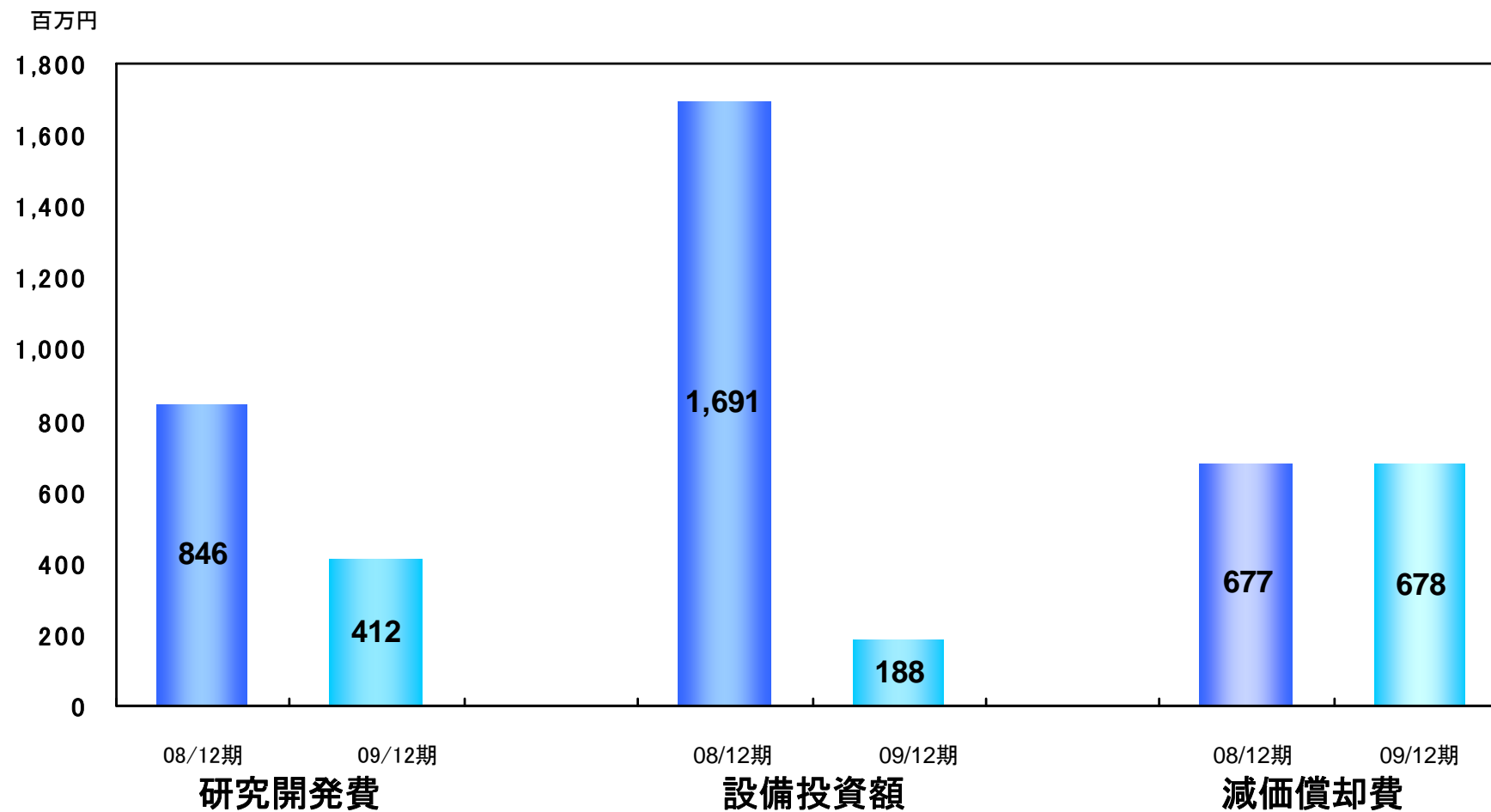
(単位:百万円)

	2009年3月期 実績	2010年3月期				前期比 増減率
		上期	下期	通期		
売上高	49,710	16,785	18,215	35,000	△29.6%	
自動車関連	13,943	1,634	4,566	6,200	△55.5%	
FPD関連	20,856	9,620	6,480	16,100	△22.8%	
半導体関連	4,579	1,437	1,963	3,400	△25.8%	
L&M関連	6,429	2,639	2,561	5,200	△19.1%	
その他	3,902	1,454	2,646	4,100	+5.1%	
営業利益(率)	△2,340 (△4.7%)	297 (1.8%)	△197 (△1.1%)	100 (0.3%)	—	
経常利益(率)	△2,944 (△5.9%)	241 (1.4%)	△241 (△1.3%)	0 (0.0%)	—	
当期純利益(率)	△2,945 (△5.9%)	260 (1.6%)	40 (0.2%)	300 (0.9%)	—	



IV 参考資料

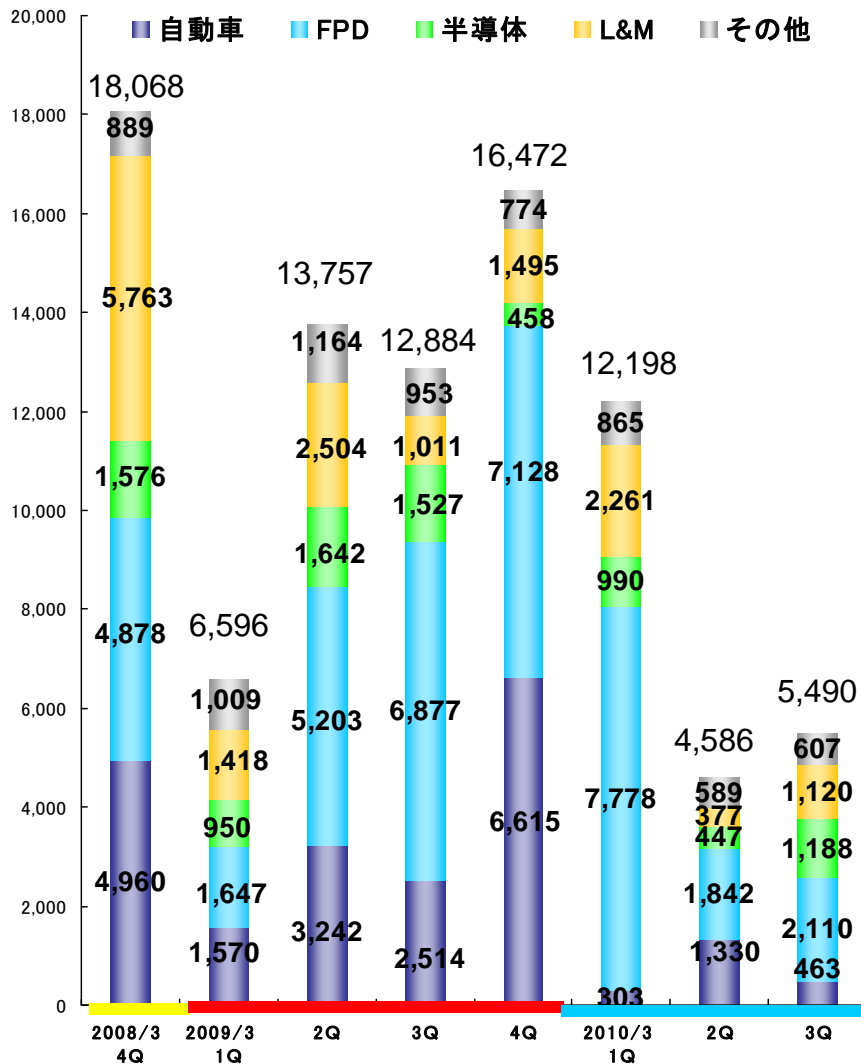
IV 参考資料 研究開発費・設備投資額・減価償却費



IV 参考資料 事業部門別・地域別四半期推移(売上高)

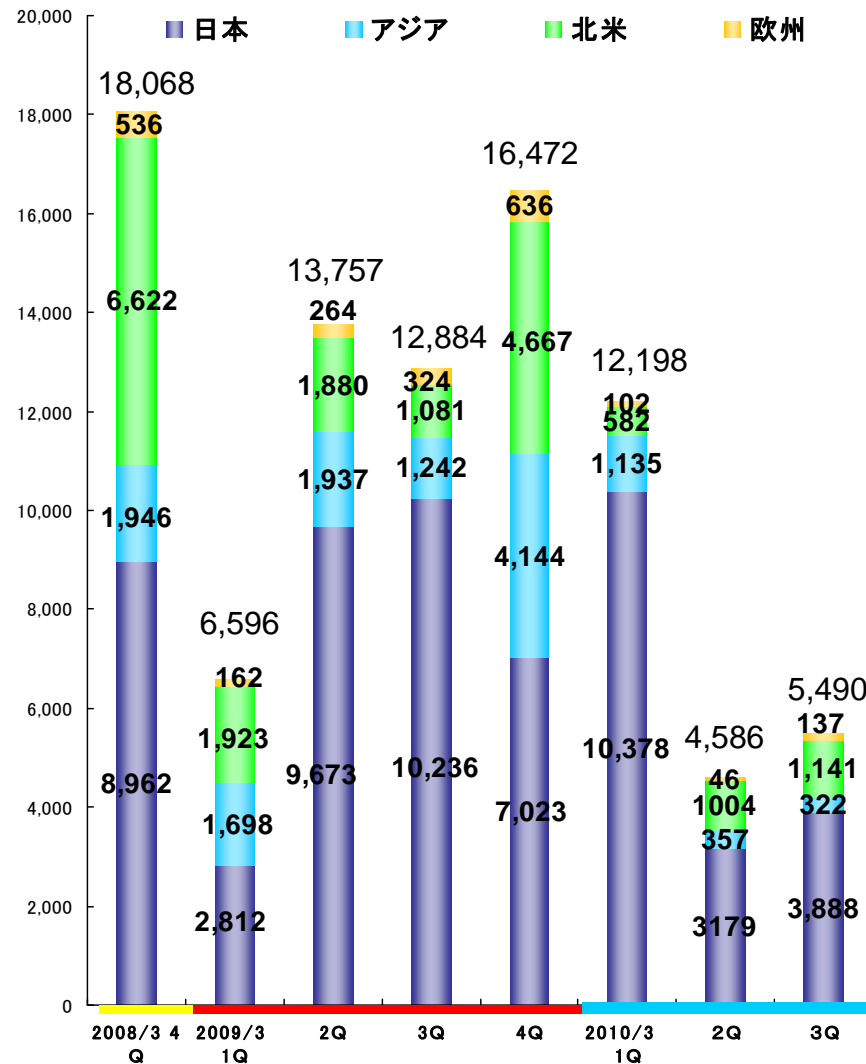
事業部門別四半期売上高の推移

百万円



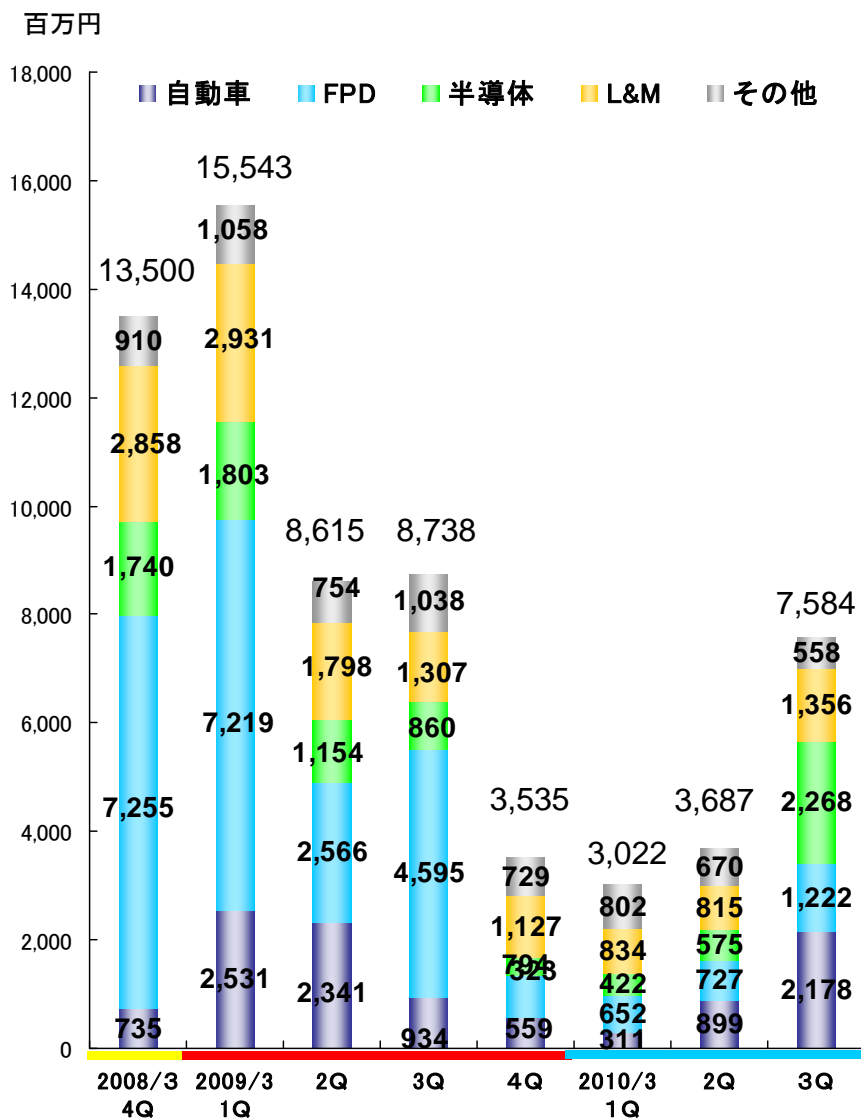
地域別四半期売上高の推移

百万円

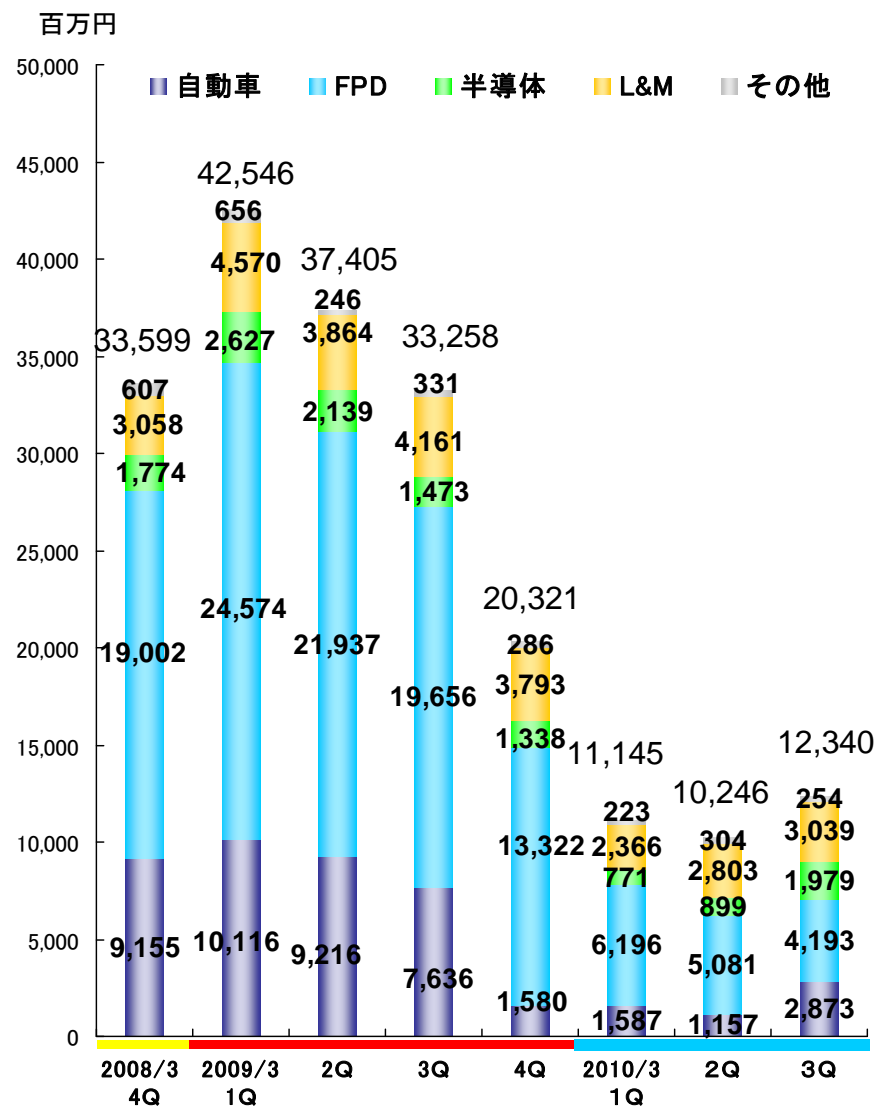


IV 参考資料 事業部門別四半期推移(受注高・受注残高)

事業部門別四半期受注高の推移

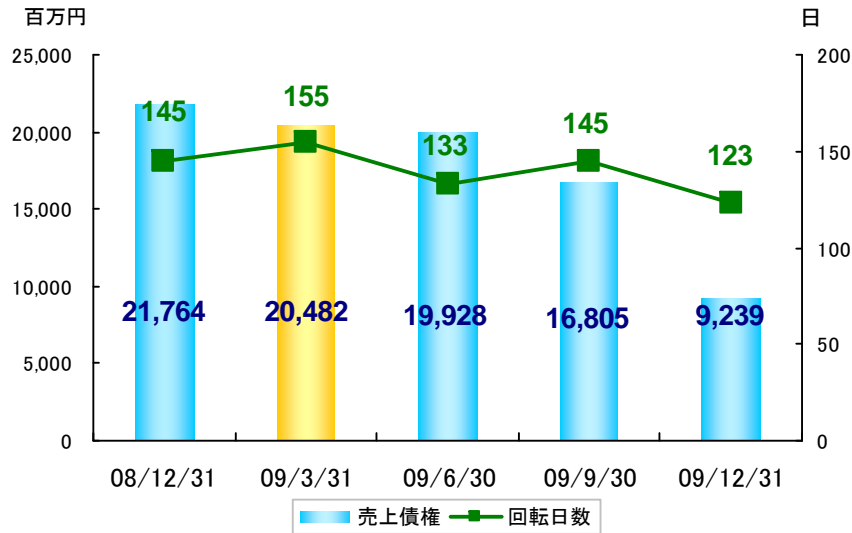


事業部門別四半期受注残高の推移

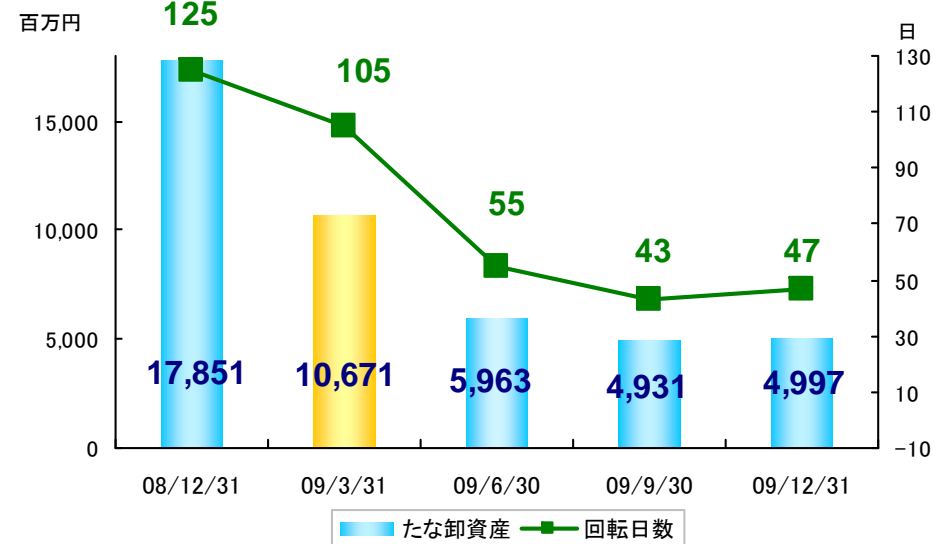


IV 参考資料 主要指標

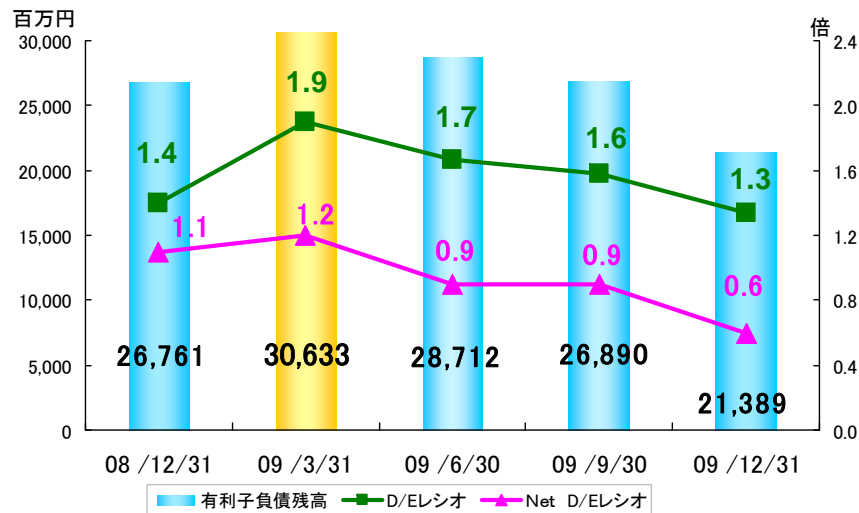
売上債権・売上債権回転日数



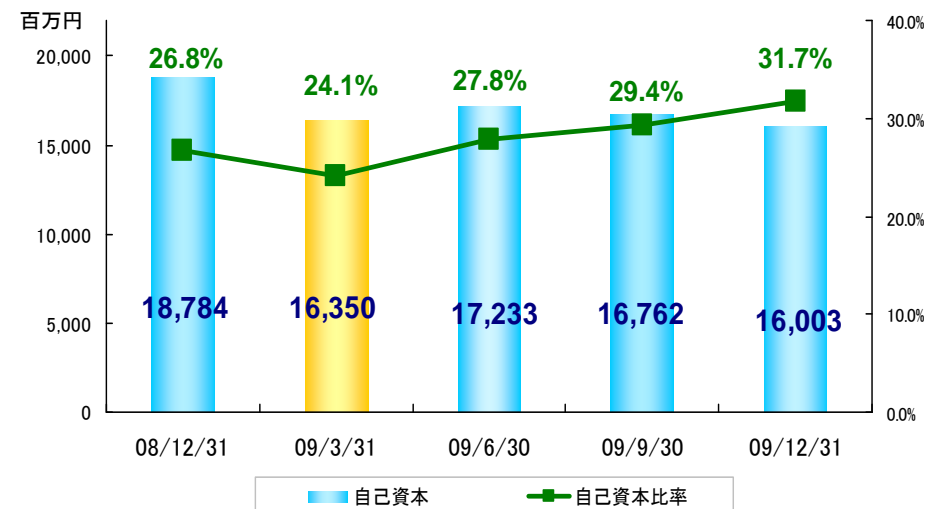
たな卸資産・たな卸資産回転日数



有利子負債残高・D/ELシオ・Net D/ELシオ



自己資本・自己資本比率



注) 売上債権回転日数、たな卸資産回転日数については、これまで売上債権、たな卸資産の過去1年間の期中平均値により算出しておりましたが、四半期の状況をより適切に反映するために、各四半期の期中平均値にて算出するよう変更しております。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、為替レートなど潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることがあることをご承知おきください。